

地方  
小出版

情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター  
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20  
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

## 地方にしかできない情報発信を

### 春夏秋冬叢書、7年目の成果と課題

文・味岡伸太郎

昨年11月、一年の野の花の生け花と俳句による「花頌抄」を出版した。A版12切、総頁456頁。内カラーが400。定価15,000円という、地方の弱小出版社としては、このご時世にしては頑張った一冊である。我々の出版社の五周年記念出版である。初めての出版から昨年末で満6年。準備期間が1年。つまり今年で8年目を迎えたということである。今更ながらよく続いたものである。では順風満帆かと問われれば、とてもではないがそんな状態ではない。

#### ますます進む、東京一極集中

この間に、B6のハードカバーを23冊、季刊の雑誌(A4)が17冊、他に8冊、合計48冊である。これが多いか少ないかの判断は難しいが、まあ頑張ったのではないかと。全てが売ればもちろん経営も安定するのだが、とにかく売ることさることながら、読者に届く以前に出版の情報を届けることが難しい。これがこの7年間の偽らざる実感である。

我々の出版社は愛知県の東三河を中心に、県境を接する、長野県南信、静岡県西遠、いわゆる三遠南信に西三河を加え、地域を紹介することから出発した。それは、ますます進む、東京一極集中。最近流行語ともなっている、「中央と地方の格差」に対する、ささやかな抵抗でもあった。

#### きっかけは「花祭り」の取材

設立のきっかけは、私が執筆した「神々の里の形」の出版だった。人口百数十人の地区で行われる「花祭り」を取材したものである。祭りに加わる人の少なさから、販売に難があるとの反対意見もあったが、幸い中央の出版社で発行すること

ができた。しかし、これは稀有な例だったようだ。

真にローカルなものだけがインターナショナルに成り得る。中央をみて制作するものにオリジナルを期待することは難しい。真のオリジナルは自らの足元から生まれるものだとして活動してきた。しかし、今その地方が失われようとしている。「花祭り」は奥三河と呼ばれる、愛知県の東栄町、津具村(現設楽町)、豊根村の山間部の20を超える集落で行われていたが、ダム建設や過疎化など、時代の国策に翻弄され減り続けながらも、近年は17地区での開催が持続されてきた。しかし、昨年相次いで最奥部の豊根村の2地区で廃止となった。他の多くの地区も過疎、少子化で、舞子の不足に悩んできた。近年は村を出て街に住む子や外孫た

ちが、祭りの時だけ帰ってきては舞ったり、男子だけでなく、女子を舞わせるなどして、舞子を確保してきた。それも外孫の次の世代を迎え、そんな無理もきかなくなっている。

一地区の廃止で、その心の張りを失い、連鎖反応のように廃止が続くことも既に指摘され出している。確かに祭りは無くとも人は生きていける。しかし祭りは地域の活力の証である。村が生きていれば祭りは続けられる。祭りの廃止はその村の文化が失われることを意味する。それはその一地区のことだけの問題ではな

い。我々のオリジナルの源を失うことなのである。一人繁栄を続ける東京の文化も、ローカルのインターナショナル化だという現実を離れることはできない。もちろん、現実のローカルがそのままインターナショナルになるという盲信も強く諫めなくてはならないことは言うまでもないが、地方の文化を失うことは、我々のアイデンティティの喪失であることも又言うまでもないこと。と声を張り上げ、失われゆく地域を少しでも記録に残し、それもままならないものはせめて記憶に残そうとしたのが、この7年である。

#### 新たな過疎化の始まり

地方の衰退には、それぞれに理由があるが、その根元にあるのは、効率を第一とした中央集権の政策だ。地方の活性化



春夏秋冬叢書5周年記念出版「花頌抄」  
(2007年11月発行)

を謳い文句とした市町村合併もまた、新たな中央集権を推し進めるものとの危惧が募る。あるいは、行き過ぎた東京一極集中を少しは是正するものになる期待もあるだろう。しかし、それが文化や人間関係よりも効率を第

一と考えることに変化がない以上、東京一極集中を支える、地域の中核都市という名の中間管理職の登場にしか過ぎないのではないかと。中心的な地区は人口も多く、周辺の吸収合併される地区の人口は少ない。その意見は新しくなった議会に正しく反映されることが可能なのか。果たして、合併後、中心部へ人口が移動し、商店の閉店、祭りの廃止も秒読み段階に入ったとの声が日々伝えられている。新たな過疎化の始まりである。

長々愚痴を言ってきたが、地方分権の流れはもう変わることはない。その上

で我々にとって最も深刻なのは、人材の中央集権だった。今、地方に分権されても、正直人材は誠に薄いと言わざるを得ない。中央におもね、真似るばかりで、残念ながら地方は人材を育てることをこれまで怠ってきた。出版・編集・デザイン・写真撮影等に関わる分野ももちろんそれに漏れない。分権と同時に人材も移

動すれば良いという意見も聞く。しかし事はそんなに簡単ではない。恐らく中央の人々には想像できない程に地方は疲弊している。中央の手法がそのまま通用するほど地方は甘くはない。チャレンジに失敗しても中央の人には中央という帰る場がある。対して地方の人間には帰る場はない。地方にしかできない情報発信は

いかにしたら獲得できるのか。これからの数年は、心ある仲間を増やし、実力を養うと共に、その方法を模索する時間でもある。しかし、許された時間は少なくなってきた。

(あじおか しんたろう／春夏秋冬叢書編集長)

URL <http://www.h-n-a-f.com/>

## 新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

### 『福岡喫茶散歩』●小坂章子著



カフェではなく、喫茶店。それは、自分と対話できる余白がある自由な空間、と著者。福岡の街にひっそりと佇む喫茶店41店を、おもに自転車であまり作られたこの本はガイドではなく、『昔ながらの喫茶』『ビル地下の喫茶』『新しい人たちの喫茶』そして『思い出喫茶』の4章からなる、店主の人生とそれを聞く著者の日々をうつつエッセイだ。店の空気が香り立つような写真もいい。

ほんのひとつきの、たった一杯の珈琲にもたらされるもの。わたしたちは生活を繰り返すなか、ふとそれを欲し、足を運び、ドアを開ける。「いい喫茶店とは、ただそこにあるだけで心の支えになるのだ」。その想いで。

◆1500円・A5判・175頁・福岡・書肆俣尻房・2007/10刊・ISBN978-4-902108-64-4

### 『森の「いろいろ事情がありました」』●ピッキオ著



この森の主人公は、軽井沢の森のたくさんの生き物たち。その案内役が、その森を拠点に調査研究と環境・自然教育活動をしている「ピッキオ」というスタッフ達。森の四季、春夏秋冬を通して、土の中に棲む生き物から地上で生息する生き物たちまでその私生活(?)が生き生きと紹介されている。

生き物達は環境の中で、さらには生物同士で

複雑に絡み合いながら生きている。実話であるから、生き物達の生命を感じ、1匹1匹の姿や営みの個性の多様性も理解し共感できる。野生の生き物達の多様性、それは大地の動きに翻弄されながら様々に進化してきた結果なのだ。

◆1680円・A5判・184頁・長野・信濃毎日新聞社・2007/7刊・ISBN978-4-7840-7058-9

### 『古い独り居』●齋藤道子著



主人公になるのは苦手だから、いっそ自分で自身を祝ってしまおう。本書は間もなく喜寿を迎える著者がその記念にと、四年間書き溜めていたエッセイをまとめたもの。亡き夫とのひととき、子や孫とのふれあい、両親や姉との思い出などが、独特の文体から醸し出される。著者が通うエッセイ教室の講師はその文体を「樋口一葉」に趣が似ていると評す。旺盛な好奇心と行動力から生まれ

るテーマに興味は尽きない。

今は「独り居」であるが、かつてこれ程の心の穏やかさがあったであろうかとの呟きに心が洗われる。カバー絵も挿画も著者の手からなり、まさに創り、生み出す喜びに溢れた魅力的な一冊。

◆1680円・四六判・222頁・青森・北方新社・2007/7刊・ISBN978-4-89297-109-9

### 『書店員の小出版社巡礼記』●小島清孝著



表題の書店員とは著者自身。出版の原点を探るべく多くが創業間もない数十の小出版社を訪れ、創業者や編集者と出版の理念とロマンを語らった。乏しい資金を元になぜ重厚な個人全集を手がけたか、いかにして時代を開示する啓蒙書出版に辿りついたか。本書は小出版社の気高い出版理念を評価の対象として客観化した。その気高さは以後、社の理念をさらに高めるという相乗効果を生

むだろう。

でも食わなければ、と悩む人は必読である。ほかに小出版社刊行本数十冊の書評も掲載、評するに値する本の選択眼、批評のスタンスともに出版人はかくあるべきという好例として纏まった一書である。

◆2625円・四六判・418頁・千葉・出版メディアパル・2007/11刊・ISBN978-4-902251-90-6

# 売行良好書

期間：2007年12月16日～2008年1月15日

[出荷センター扱い] ※税込み価格

- (1)『医者、用水路を拓く』1890円・石風社
- (2)『機能不全家族』1600円・アートヴィレッジ
- (3)『作っておくと、便利なおかず』1260円・ベターホーム出版局
- (4)『ありがとう』1470円・吉備人出版
- (5)『フィールドガイド 日本の野鳥 増補改訂版』3570円・日本野鳥の会
- (6)『子どもを生きれば おとなになれる』2100円・アスクヒューマンケア
- (7)『お江戸超低山さんぽ』1365円・書肆侃侃房
- (8)『植民地時代の古本屋たち』2100円・寿郎社
- (9)『競馬を操る陰の力』1575円・ノベル出版
- (10)『どんぐりの図鑑 フィールド版』1050円・トンボ出版
- (11)『排除型社会』2940円・洛北出版
- (12)『イワナをもっと増やしたい!』1200円・フライの雑誌社



[三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書] ※センター出荷データより/税込み価格

- (1)『モツ煮狂い 第2集』480円・平成烏有堂
- (2)『書肆アクセスという本屋があった』1200円・右文書院
- (3)『酒とつまみ 10号』400円・大竹編集企画事務所
- (4)『東京かわら版 1月号』420円・東京かわら版
- (5)『よみがえる滝山城』735円・揺籃社
- (6)『植民地時代の古本屋』2100円・寿郎社
- (7)『神保町「書肆アクセス」半畳日記』1680円・無明舎出版
- (8)『北海道い旅研究室 10』690円・海豹舎
- (9)『鉄腕伝説「稲尾和久」』1000円・西日本新聞社
- (10)『廃村と過疎の風景』1050円・HEYANEKO

[ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書] ※センター出荷データより/税込み価格

- (1)『広告批評 No. 322』590円・マドラ出版
- (2)『酒とつまみ 第10号』400円・大竹編集企画事務所
- (3)『モツ煮狂い 第2号』504円・平成烏有堂
- (4)『HOT CHILI PAPER Vol. 44』1500円・エイチ・シーピー
- (5)『広告批評 No. 320』1260円・マドラ出版
- (6)『子どもと昔話 No. 34』830円・小澤昔ばなし研究所
- (7)『modern juice 7』735円・モダンジュース
- (8)『Ari vol. 1』490円・シャンタンジーン
- (9)『季節の手づくり 自然からの贈りもの40のレシピ 冬と春』1050円・Ricochet (リコシェ)
- (10)『NEW DIMENSION』5250円・赤々舎

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。  
<http://www.bekkoame.ne.jp/~much/>

## トピックス —★★★

### ▼ミニコミ・リトルマガジンフェア

三省堂神保町本店4Fにて1月下旬より、センター扱いのミニコミ・リトルマガジン(直販・直卸専用を含む)のフェアが行われます。閉店した書肆アクセスが独自に仕入っていた『野宿野郎』や『昭和プロレスマガジン』『いろは』『スムース』などユニークなミニコミ・リトルマガジンがバックナンバー(在庫あるもの)も含めて展開される予定です。男女を問わずどの年齢層でも楽しめる内容となります。

### ▼ジュンク堂書店新宿店に地方出版コーナー

3月上旬にジュンク堂書店新宿店6Fに地方出版コーナーが正式オープンすることとなりました。名称は未定で、約10坪、4千～5千冊の規模となります。ほとんどが地域に根ざした本を主体に構成される予定です。

### ▼海鳥社に福岡県文化賞

一昨年に15周年を迎えた福岡の海鳥社が「福岡県文化賞—社会部門」を受賞しました。85年に創業して以来一貫して九州・福岡に軸を置いて『九州戦国合戦記』『福岡藩分限帳集成』等を刊行してきた仕事が評価されました。

## 郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。

◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。

◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。

★地方・小出版流通センター

FAX: 03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



# 三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

**神保町本店 4階**  
**地方出版・小出版物フロア**

営業時間 10:00 AM～8:00 PM  
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1  
 TEL. 03-3233-3312(代)  
 URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

**営業の  
ごあんない**

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

